

効果報告レポート

【事業者名】

Edv Future株式会社

【ツール名】

Edv Path

【ツールの機能分類】

メインツール（発展的な学び）

2022年2月

EduFuture



EduPath データに基づく生きる力の育成で学習意欲を上げる

「**非認知能力（ポテンシャルティ）**」に着目し、生徒一人一人の非認知能力を可視化・数値化したのち、データとして蓄積。生徒の成長支援を行い、学習意欲を向上させるための最適なカリキュラムとコーチングを提案することでアカデミックアドバイスソフトウェアです。
生徒個々の特性や進度に応じた、包摂的かつ公平で質の高い学びを支援します。

【ツール活用による効果】

・ 非認知能力の育成

「集中力・自立心・達成感を得られる」

「自分で考え行動する、創造的な人材育成」

「学びに向かう意欲を高め、自学を習慣化」

・ 教職員のスキル向上や経験不足の補填等により、

児童・生徒への**指導方法・授業内容を改善**

アセスメント測定

SEL・EQ/GRIT/性格タイプ/
進路などのデータをパーソナ
ライズして生徒の資質管理

総合的な探究の教材

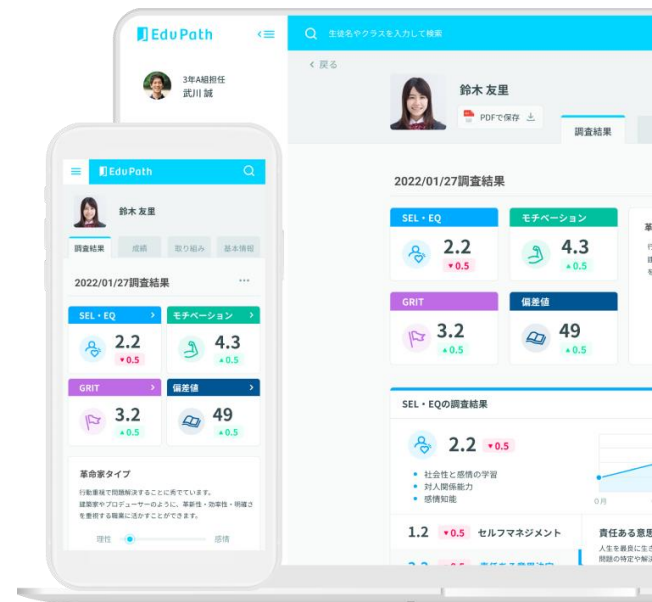
SEL学習を中心に“探究学
習”の年間シラバスと授業
カリキュラムを提供

個別最適化のコーチング

授業への回答・評価データ
を定点観測して生徒への
コーチングプラン

教員へのAIサポーター

学業や進路の課題を洗い出
し、適切な指導方法やサ
ポートプランをレコメンド



非認知能力のデータ蓄積/活用

資質調査

弊社独自のアンケートを用いて、生徒の非認知能力と学習への意欲・進路選択の問題点を洗い出します。

生徒情報インポート

生徒情報（写真、氏名など）の情報を登録するだけで準備完了

進捗確認

生徒一人ひとりに対しての効果測定と改善の進捗を確認して、主体的な学習への意欲向上と自律的な進路選択を実現します。



目標設定

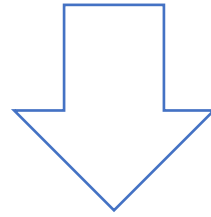
アンケートの回答結果を集計して、EdvPathへ数値反映します。学校単位・クラス単位・生徒単位で分析したうえで、数値目標とカリキュラムマネジメントをして主体的な学習への意欲向上と自律的な進路選択に向けた生きる力の育成が可能です。

実行促進

カリキュラムマネジメントにそった探究学習カリキュラムを実施して、生徒の行動データを取得後に個々へ適したコーチングプランをAIサポーターがご用意しております。

課題：実証校のグランドデザインの実現に向けた教員の指導手法の確立

実証校のグランドデザインでは、**自己肯定感の育成**による**粘り強く取り組む力の獲得**や、**他者と協調できる人間力**、**自己調整力（セルフマネジメント）**など、従来の指導ではその育成が難しい「非認知能力」を獲得している状態を「目指す生徒像」として設定



教員側の指導現場においてグランドデザインの効果的な実現に必要な具体的なアプローチ・指導方法に関する情報が少なく、一律の授業やコーチングに留まっているという現状

「Edv Path」活用により、グランドデザインを実現するために必要な3つの要因分析とサポートプランを年間を通して実施

- ①アセスメント・アンケート実施（9月）
→調査設計を行い、5件法を用いて調査

＜ 戻る 問 1 / 10

他人に対してどのような影響を及ぼすかを
考えて意思決定をすることができない

☐ ☒ ☐ ☐ ☐

当てはまる 当てはまらない

次へ >

心理的安全性

学校やクラスなど属する集団への安心感の状態を把握する調査

自己肯定感

自分の性格や感情、思考について、自分なりに強み/弱みを考え、言語化する行動力を把握する調査

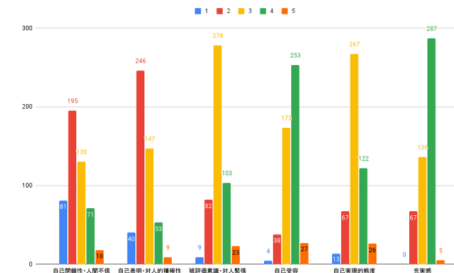
自己調整力

（セルフマネジメント）

明確な目標があり、その目的を達成するための手順を自律的に計画し、実行にうつす行動力を把握する調査

- ②レポートによるフィードバック（9月末）と
コーチングプランの実施（10月～随時）

自己肯定感の測定結果分析とコーチングプラン



分析結果

全体的に対人的積極性と自己閉鎖性の数値が低い生徒が多い傾向にあり、2つの要素を改善することで、自己肯定感の改善につながると考えられます。
対人緊張の数値は一般的な傾向がみられるため、コミュニケーションに関して問題があるという訳はないと考えられます。

コーチングアドバイス

授業内や校内の教育活動の中にグループディスカッションを始めとした集団活動を取り入れてみてください。教科教育やその他の教育活動においても話し合いなどのアクティブラーニングを行うことが効果的でしょう。

集団活動を行う際には下記のルールに沿って行うように心がけてください。

【ルール】

1. 一部の人が話して終わらないような意図の設定をする
2. 意見を聞くだけでなく、聞いた内容を振り返る時間をとる
3. 活動を自分視点と他者視点で振り返る・評価する
4. 良かった点を洗い出し、相手を褒める
5. 相手を批判しない

弊社提供のアセスメントレポート「コーチングアドバイス」を用いて学校やクラス運営、授業内で実践
→1月に改めて再調査、改善が見られているか確認

2月より具体的なコーチングアドバイスを提示
→自己肯定感の向上を目指す

クラスごとに「総合的な探究の時間」、LHRで実施

※新型コロナウイルス感染症の影響を最大限考慮し、弊社担当は教員サポートのため対象校に赴いたものの生徒への説明に関しては原則オンライン会議ツールを利用。

■ 補助事業において実施したサポート内容

【補助事業－導入に関して】

- ・ 教員向け導入利用方法の研修
- ・ 教員・生徒へのEdv Pathの操作説明1年生（2人対応：1時間×5クラス）
- ・ 教員・生徒へのEdv Pathの操作説明2年生（2人対応：1時間×5クラス）
- ・ Edv Pathの初期設定及び稼働確認（546アカウント分）

【補助事業－アセスメント後のサポートについて】

- ・ 生徒対象説明会
- 調査結果・非認知能力を向上させるためのアクションを紹介
- ・ 教員研修会
- 専任教員57名を対象に調査結果に関する報告、レポートによる分析結果を基に学校の現状と課題、コーチングプランについて研修会を実施。
- ・ 教員向けカリキュラム研修

【通常サービスの一環として実施】

- ・ 保守・メンテナンス（定期メンテ1ヶ月1回及び不備発生時に随時対応）
- ・ 問合せ対応（コールセンターによる操作説明等）



↓ 生徒向け説明会の様子

※新型コロナウイルス感染症の影響を最大限考慮し、対象校に赴いたものの生徒への説明は原則オンライン会議ツールを利用。



← ツール活用イメージ
※プライバシー保護、生徒との接触を控えたため生徒のツール活用場面の画像はありません。

本事業においてEdTech ツールを導入した学校等教育機関数

1件：福岡県立太宰府高等学校

対象：高校1年生251名（5クラス）、高校2年生238名（5クラス）、教員57名

福岡県立大宰府高等学校は、昭和61年4月に「普通科」と県内公立高校で唯一の「芸術コース（現：芸術科）」を有する特色のある県立学校です。

「**新たな学びプロジェクト**」という福岡県が独立行政法人教職員支援機構「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」の研究地域の指定を受けてアクティブ・ラーニングの研究と普及に取り組んでいるプロジェクトにも参加しており、ICTを活用した授業改革に向けて取り組まれています。

学校等設置者数

1件：福岡県教育委員会

● EdTech ツールによる活用効果について分析と考察

「Edv Path」による生徒個々の測定結果を基に「新たな学びプロジェクト」の研究報告書用に相関係数を算出

Webアセスメント
設問数：84問
実施月：1月
実施人数：489名
アセスメント内容：
自己肯定感、心理的安全性、自己調整力について

心理的安全性・自己肯定感と
人的資源の相関

	家庭	友人	教員
心理的安全性	0.23	0.41	0.36
自己肯定感	0.23	0.45	0.40

主体性と
心理的安全性・自己肯定感の相関

	心理的安全性	自己肯定感
自己調整力	0.39	0.43
復元力	0.45	0.51
執念	0.33	0.36

学校側の保有している人的資源との相関データと弊社提供のアセスメント結果より対象校による算出。
生徒の**主体性**に関して、特に挫折から立ち直る際の粘り強さについては自己肯定感の高低が一定程度の相関性を有し、その自己肯定感を培うのに教員による働きかけが意味をもつことが判明
→教育活動を通して主体性を育てることは可能であると考察

● EdTechツール使用前後の児童・生徒・教職員等のコメント・感想等

<福岡県立太宰府高等学校 教務主任 菱谷先生>

本校では、校是「世の役に立つ人間（ひと）たれ」の実現に向けて、「総合的な探究の時間」と行事をはじめとした「特別活動」の充実を図っています。地域との連携を深めていきながら、自らの夢を発見する機会を設け、「地域の中で自らの夢を見つけ、育み叶える力」の育成を目指してのことです。このような本校の教育活動を一層推進し、また成果を可視化するために「Edv Path」を導入しました。

「新たな学びプロジェクト」の研究報告書用に相関係数を算出してみましたところ、我々教員が適切に働きかけるのであれば、生徒に対して一定有効に機能するであろうと思われる結果が出ました。ますますもって、我々の行動変容が急務だとの認識を強くしました。

※生徒個々へのアンケートは実施していないため、生徒によるコメントはありません。

● EdTech ツールの導入・運用における課題

〈導入面〉

- ・現状ウェブサイトのみでの運営になっており、インターネット環境下でなければ動作、運用ができない。

〈運用面〉

- ・導入校におけるサイトビュー率の割合が伸び悩んでいる

● 改善策

- ・アプリ開発による運用。
- ・ダッシュボード画面を一新し、多忙な先生方が短時間で必要な情報が得られるサイト表示ができるよう改善を図る。
- ・教員に向けてアラート機能を追加する。
- ・生徒画面に新規機能を追加し、生徒の主体的な学びが実現に向けたサイト運営を展開する。

● 会社概要／お問い合わせ先

EduFuture 会社概要

テクノロジーとイノベーションで
学校教育のスタンダードを創る

会 社 名 Edv Future株式会社（エデュフューチャー）

代表取締役 代表取締役 山崎 泰正
取締役 武川 誠

設 立 日 2019年12月2日

資 本 金 300万円

本社所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-3-12
グレイスビル6階

電 話 番 号 050-5373-1252



ご不明点・ご質問などございましたら
お気軽にお問い合わせください。

メー ル : support@edufuture.co.jp

電話番号 : 050-5373-1252

会 社 H P : <https://edufuture.co.jp/>

